

整形外科学：切断

39-065 下肢切断について正しいのはどれか。

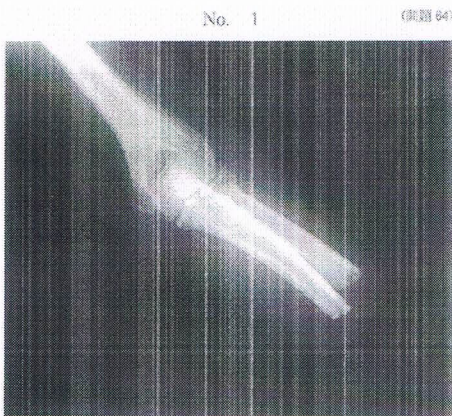
1. 大腿標準切断では股内転拘縮を生じやすい。*内転筋群に対し、外転筋群がより残存しているため*
2. 下腿標準切断では外反膝を生じやすい。*屈曲拘縮を生じやすい。外転拘縮をおこしやすい。また同様に屈曲拘縮をおこしやすい。*
3. サイム切断では断端末に創を生じやすい。*の形状が良好で体重を*
4. ショパール関節離断では足外反拘縮を生じやすい。*かたやすく、創を生じにくい。*
5. リスフラン切断では足内反変形を生じやすい。*※ ショパール関節離断時、リスフラン切断とも果足、内反変形が生じやすい。*

42-063 切断後の幻肢で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. いったん出現した幻肢は消失しない。*2年程度で消失することが多い。幻肢痛は一生涯続くこともある。*
2. 先天性四肢欠損症でも認められる。*は認められない。先天性欠損では、その部位に対応する月歯の体性感覚野が形成されはいたため、幻肢はおこらない。*
3. 四肢末梢部ほど強く現れる。
4. 上肢切断よりも下肢切断で強く現れる。
5. 術直後義肢装着法には予防効果がある。

44-064 エックス線写真 (No1) を示す。この病態の原因で最も多いのはどれか。

1. 外傷
2. 腫瘍
3. 糖尿病
4. 閉塞性血栓性血管炎 (Buerger 病)
5. 閉塞性動脈硬化症



当幻肢・幻肢痛

- ・ 切断した四肢が存在するよりに感じるのが幻肢である。
- ・ 幻肢は対応する脳の感覚領域の広さと関係しているため、下肢より上肢に強い。また近位部より遠位部(手指)に強い。
- ・ 2年程で自然に消失することが多い。
- ・ 幻肢痛は、ストレスや疲労で増強することがある。
- ・ 幻肢や幻肢痛は、早期の義肢装着訓練やミラー療法が効果がある。

← 図は前腕部の切断である。
上肢切断の原因のほとんど(80%)は外傷によるものである。

※ 下肢の切断、特に高齢者では、
血行障害(閉塞性動脈硬化症、糖尿病)によるものが増加している。

46-P-085 小児の切断で正しいのはどれか。

1. 5歳児の切断では幻肢が生じる。*おこらない。5歳以下の小児では幻肢はおこらない。*
2. 先天性切断では一側下肢切断が最も多い。*上肢、特に手指の欠損が最も多い。*
3. 後天性切断では一側上肢切断が最も多い。*小児では、外傷や腫瘍による一側下肢切断が多い。*
4. 上腕切断では後に脊柱側弯を生じやすい。*体幹にかかる上肢の重みのアンバランスにより、側弯が生じやすい。*
5. 下腿切断では後に外反膝変形を生じやすい。

屈曲変形

48-P-084 下肢切断について正しいのはどれか。

1. 大腿標準切断では股内転拘縮を生じやすい。*股屈曲、外転、外旋拘縮を生じやすい。*
2. 下腿標準切断では外反膝を生じやすい。*膝の屈曲拘縮*
3. Syme 切断では断端末に創を生じやすい。*生じにくい。*
4. Chopart 関節離断では足内反拘縮を生じやすい。
5. Lisfranc 切断では足外反変形を生じやすい。

果足内反